

衛生管理（感染症）問題

- 1 感染症に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。
a 結核に感染した疑いがある者は、強制的に入院させる。 c マラリアの対策には、蚊の駆除を行う。
b コレラの患者には、就業禁止の措置をとることがある。 d エイズは、発生動向調査が行われていない。
① aとb ② bとc ③ cとd ④ aとd
- 2 次の感染症のうち、感染症法に基づき、その病原体を保有しなくなるまでの期間、美容の業務に従事してはならないものはどれか
① マラリア ② 破傷風 ③ A型肝炎 ④ エボラ出血熱
- 3 感染症に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。
a 麻しんに感染した疑いがある者は、強制的に入院させる。
b 腸管出血性大腸菌感染症の患者には、就業禁止の措置をとることがある。
c 日本脳炎は、人から人への感染はない。
d 後天性免疫不全症候群(エイズ)は、発生動向調査が行われていない。
① aとb ② bとc ③ cとd ④ aとd
- 4 次の感染症のうち、消化器系感染症に該当するものはどれか。
① クラミジア ② 麻しん ③ ペスト ④ 急性灰白髄炎(ポリオ)
- 5 次の感染症のうち、血液を介して感染するものはどれか。
① B型肝炎 ② 細菌性赤痢 ③ コレラ ④ 腸チフス
- 6 次の疾病のうち、感染症法で規定する感染症に該当しないものはどれか。
① 鳥インフルエンザ ② 狂犬病 ③ 牛海綿状脳症(狂牛病) ④ エボラ出血熱
- 7 感染症法上の三類感染症に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
① 診断した医師は、直ちに届け出なければならない。 ③ 特定の職業への就業によって集団発生を起こすことがある。
② 無症状病原体保有者にも規制が及ぶことがある。 ④ 感染力や罹患した場合の重篤性等から極めて危険性が高い。
- 8 病原体と感染症に関する次の組合せのうち、誤っているものはどれか。
① 細菌……コレラ ② ウイルス……風しん ③ 原虫……マラリア ④ クラミジア……腸チフス
- 9 次の感染症のうち、感染症法による就業制限の対象とならないものはどれか。
① 結核 ② ジフテリア ③ C型肝炎 ④ エボラ出血熱
- 10 次の感染症のうち、美容師がり患した場合、感染症法に基づき美容の業務に従事できなくなるものはどれか。
① B型肝炎 ② 後天性免疫不全症候群（エイズ） ③ 結核 ④ 梅毒
- 11 感染症法の三類感染症に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。
① 病気にかかった場合の危険性が極めて高い。 ③ 医師は、診断後に届け出る義務はない。
② 特定の職業への就業が制限される。 ④ 入院勧告がなされる。
- 12 感染症法において、美容師が感染した場合、就業制限の対象となる感染症はどれか。
① 結核 ② 麻しん ③ 梅毒 ④ A型肝炎
- 13 感染症と病原体に関する次の組合せのうち、誤っているものはどれか。
① 百日せき……ウイルス ② つつが虫病……リケッチア ③ 破傷風……細菌 ④ マラリア……原虫
- 14 微生物に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。
a カビのなかには、人間に有益にはたらくものがある。 c 発しんチフスリケッチアの大きさは、結核菌より大きい。
b スピロヘータの形は球形である。 d ウイルスの形は、球形、円筒形などいろいろある。
① aとb ② bとc ③ cとd ④ aとd
- 15 細菌の構造に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
① 細菌には鞭毛をもつものがある。 ③ 細菌の成分の80%は水分である。
② 細菌の芽胞は、熱や乾燥に対して抵抗力が強い。 ④ 細菌は、DNA又はRNAのいずれか一種類だけをもっている。

16 ウイルスに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 基本構造は、核酸とそれを保護するタンパク質である。 ③ 生きた細胞が無くても発育、増殖できる。
- ② DNAかRNAのいずれかが1種類の核酸をもっている。 ④ 生活環境に適応し、しばしば変異をおこす

17 芽胞に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 細菌にとって、環境が育成に不適当な状態になると細胞内にできる。 ③ 結核菌は芽胞を作る。
- ② 熱や乾燥に対して抵抗が強い。 ④ 休眠の状態になっている。

18 細菌に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 大きさはウイルスより大きい。 ③ 成分は80%がタンパク質である。
- ② 球菌、桿菌（かんきん）、らせん菌に大別される。 ④ 増殖は菌体の2分裂によって行われる。

19 細菌に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 菌体の周囲に鞭毛（べんもう）を持ち、これを動かして運動するものがある。 ③ 酸素があると発育できないものがある。
- ② DNAまたはRNAの、いずれかのみを持っているものがある。 ④ 芽胞をつくるものがある。

20 細菌に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 細菌の固形成分のおよそ半分はタンパク質である。 ③ 細菌は、生きた細胞の中でのみ増殖する。
- ② 細菌は、DNAとRNAの両方をもっている。 ④ 細菌の中には、100℃の加熱に耐えるものがある。

21 芽胞に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① ウイルスは芽胞を作る。 ③ 結核菌は芽胞を作る。
- ② 芽胞は熱や乾燥に強い。 ④ 細菌は芽胞を作ると栄養型になる。

22 ウイルスに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① 増殖は2分裂で行われる。 ③ 生きた細胞内でのみ増殖する。
- ② DNAとRNAの両方の核酸をもっている。 ④ 変異を起こすことはない。

23 細菌の増殖に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 細菌は、生きた細胞の中だけで増殖する。 ③ 細菌の種類によっては、酸素があると発育できないものがある。
- ② 細菌の種類によっては、低温や高温でよく発育するものがある。 ④ 細菌の増殖には、十分な水分が必要である。

24 微生物の増殖に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① 細菌の増殖には、酸素が不可欠である。 ③ ウイルスの増殖は、2分裂で行われる。
- ② 細菌の増殖に紫外線は、有害である。 ④ ウイルスの増殖には、有機物の栄養源が不可欠である。

25 細菌に対する環境の影響に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① すべての細菌の発育には酸素が必要である。 ③ 多くの病原菌の発育温度は、15～45℃である。
- ② すべての細菌の最適pHは酸性である。 ④ 細菌の増殖には水分を必要としない。

26 細菌に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 紫外線は、細菌の発育に有害である。 ③ 細菌の成分であるタンパク質は、加熱により凝固する。
- ② 細菌の芽胞は、熱や乾燥に対して抵抗力が強い。 ④ 多くの細菌の発育に最適なpHは、酸性である。

27 微生物の増殖に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 酸素があると増殖できない細菌がいる。 ③ ウイルスの増殖には生きた細胞が不可欠である。
- ② 10℃以下の温度でも増殖する細菌がいる。 ④ ウイルスの増殖は2分裂で行われる。

28 細菌の変異に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- ① 変異によって、化学療法剤や消毒剤に対する耐性を獲得することがある
- ② 変異によって、細菌の病原性が低下することがある
- ③ 変異には、細菌が新たな性質を獲得する場合と本来持っていた性質を失う場合がある
- ④ 変異によって、細菌の形態が変化することはない

29 人体感染源に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 感染し発病するまでの潜伏期の間は、菌が体内に留まっているため排菌されることはない。
- ② 発病後、症状がなくなり、治ったように見えても、菌が完全に体内から消失していない場合がある。
- ③ 病原体に感染していても、まったく症状がなく、排菌している場合がある。
- ④ 細菌性赤痢や腸チフスでは、症状が軽快してもさらに2週間の観察と繰り返しの検便が必要である。

30 感染症に対する人体の抵抗力に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 人は生まれながらにして、ある種の微生物に対して抵抗力がある。
- ② 皮膚及び粘膜は、微生物の侵入を拒む働きがある。
- ③ 赤血球には、体内の微生物を捕えて、これを殺してしまう働きがある。
- ④ 人体の栄養状態が良好であると感染症への抵抗力が高まる。

31 病原体の感染に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① 不顕性感染とは、感染して発病しているが、体外に病原体を排泄していない状態をいう。
- ② 持続性感染とは、感染を受けた宿主が、発病しないで長期間にわたって病原体と共存し続けている状態をいう。
- ③ 日和見感染とは、通常、健康人のほとんどが感染し、一部の人が感染していない状態をいう。
- ④ 病原体が人体に侵入しても発育・増殖できず、殺滅されて全部体外に排除された場合も感染という。

32 次のうち、健康な人であれば通常、感染を起こさないような弱毒の病原体に感染し、発病している状態を表したものはどれか。

- ① 不顕性感染 ② 持続性感染 ③ 無症状感染 ④ 日和見感染

33 感染と発病に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 感染しても発病しないこともある。 ③ 感染とは、病原体が人体の組織に侵入して増殖することである。
- ② 病原体が人体に付着すると必ず感染する。 ④ 発病とは、感染した人体の組織や臓器に病的な変化が起きることである。

34 常在細菌叢に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 人体の皮膚や粘膜などには、一定の細菌が定着しており、常在細菌叢とよばれている。
- ② 鼻腔の常在細菌として、多数のブドウ球菌が存在しているが、感染源となることはない。
- ③ 常在細菌の存在によって、病原体の人体への侵入を防ぐ現象が知られている。
- ④ ビタミンなど人体に必要な物質を産生している腸内細菌もある。

35 人体の部位と存在する常在細菌叢に関する次の組合せのうち、正しいものはどれか。

- ① 皮膚……結核菌 ② 顔面……ジフテリア菌 ③ 鼻腔……ブドウ球菌 ④ 毛髪……コレラ菌

36 人体の部位と存在する常在細菌叢に関する次の組合せのうち、誤っているものはどれか。

- ① 皮膚……レンサ球菌 ② 鼻腔……結核菌 ③ 顔面……ブドウ球菌 ④ 大腸……大腸菌

37 常在細菌叢に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 大腸など消化管に存在するが、皮膚には認められない。
- ② ビタミンなど人体に必要な物質を産生するものも知られている。
- ③ 病原体の侵入を防ぐ働きも知られている。
- ④ 宿主の抵抗力が低下した場合などに、人体に対し悪影響を及ぼすことがある。

38 次の感染症のうち、患者や病原体保有者により汚染されたタオルやスリッパに接触することで、感染する可能性があるものはどれか。

- ① 日本脳炎 ② デング熱 ③ 白癬 ④ C型肝炎

39 常在細菌叢（さいきんそう）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 人体の皮膚や粘膜などには一定の細菌が定着している。 ③ ビタミンなど人体に必要な物質を産生する腸内細菌もある。
- ② 鼻腔に存在するブドウ球菌は感染源となることはない。 ④ 常在細菌には、病原体が人体へ侵入することを防ぐはたらきもある。

40 次の感染症のうち、定期の予防接種の対象となっているものはどれか。

- ① 狂犬病 ② 腸管出血性大腸菌(O157)感染症 ③ コレラ ④ 日本脳炎

41 免疫に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 病原体あるいは毒素の体細胞に対する刺激で免疫が成立し、この刺激となるものを抗原という。
- ② 免疫を獲得すると人体の体液中に抗原に対抗する物質ができ、これを抗体という。
- ③ 一度産生された抗体は、生涯にわたって有効である。
- ④ 予防接種により得られるものは、後天免疫である。

42 免疫に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 先天免疫とは、生まれながらにもっている免疫のことである。 ③ 能動免疫とは、感染やワクチンで獲得した免疫のことである。
- ② 後天免疫とは、生後獲得した免疫のことである。 ④ 受動免疫とは、抗原の移入によって得られた免疫のことである。

43 次の感染症のうち、予防接種法の対象でないものはどれか。

- ① 風しん ② 急性灰白髄炎(ポリオ) ③ C型肝炎 ④ 百日せき

- 44 免疫に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
 ① 感染すると、その抗体は、一生、血清中に存在する。
 ② 免疫成立のための抗体産生を誘導する病原体や毒素などを総称して抗原という。
 ③ 生後数か月くらいまでの乳児が母親から引継ぐ免疫は、受動免疫である。
 ④ ワクチンで獲得した免疫は、後天免疫である。
- 45 次の感染症のうち、わが国の定期の予防接種の対象となっていないものはどれか。
 ① 麻しん (はしか) ② 破傷風 ③ 狂犬病 ④ 風しん
- 46 予防接種に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
 ① 対象疾病により接種回数は異なる。 ③ 麻しんワクチンはトキソイドである。
 ② 対象疾病により接種対象年齢は異なる。 ④ 定期に行うものと臨時に行うものがある。
- 47 予防接種に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
 ① 対象疾病や実施方法は健康増進法によって定められている。 ③ 対象疾病により接種回数は異なる。
 ② 法に基づく予防接種には、定期に行うものと臨時に行うものがある。 ④ 対象疾病により接種対象年齢は異なる。
- 48 予防接種法に基づく予防接種に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
 ① 定期予防接種の対象疾病にはA類疾病、B類疾病があり、救済の内容などに違いがある
 ② 自らが感染症にかかりにくくなるだけでなく、社会全体で流行を防ぐ効果もある。
 ③ 予防接種を受けるように努めなければならないという努力義務は、これを受けなければならないという義務に改められている
 ④ 定期に行われるものや臨時に行われるもの、希望者が任意に受けるものがある
- 49 次の感染症のうち、消化器を経由しないで感染するものはどれか。
 ① A型肝炎 ② 急性灰白髄炎(ポリオ) ③ 破傷風 ④ コレラ
- 50 次の感染症のうち、胎内感染することがあるものはどれか
 ① コレラ ② 百日せき ③ 風しん ④ 腸管出血性大腸菌感染症
- 51 次の感染源と感染症に関する組合せのうち、誤っているものはどれか。
 ① 病原体を保有する土壌が感染源……………狂犬病 ③ 病原体を保有する節足動物が感染源……………日本脳炎
 ② 病原体を保有する動物が感染源……………ペスト ④ 病原体を保有するヒトが感染源……………赤痢
- 52 感染症と感染源に関する次の組合せのうち、誤っているものはどれか。
 ① マラリア……………蚊 ② 破傷風……………土壌 ③ 日本脳炎 ……ミ ④ チフス……………ヒト
- 53 次の感染症のうち飛沫核感染(エアゾール感染)をしないものはどれか。
 ① A型肝炎 ② 結核 ③ 水痘(水ぼうそう) ④ 麻しん
- 54 次の感染症のうち、飛沫感染(しぶき感染)するものはどれか。
 ① 麻しん ② 後天性免疫不全症候群(エイズ) ③ 腸チフス ④ 腸管出血性大腸菌感染症
- 55 感染症と感染経路に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。
 ① ペストは、蚊を介して感染する。 ③ コレラは、飲食物を介して感染する。
 ② 麻しんは、飛沫(しぶき)を介して感染する。 ④ 破傷風は、土壌を介して感染する。
- 56 次の感染症のうち、蚊によって媒介されるものはどれか。
 ① インフルエンザ ② 日本脳炎 ③ C型肝炎 ④ 細菌性赤痢
- 57 次の感染症のうち、飛沫感染するものはどれか。
 ① 後天性免疫不全症候群(エイズ) ② C型肝炎 ③ 腸管出血性大腸菌感染症 ④ 麻しん
- 58 次の感染症のうち、患者や病原体保有者によって汚染されたタオルに接触することにより感染するものはどれか。
 ① 日本脳炎 ② 白癬 ③ 狂犬病 ④ マラリア
- 59 感染症と感染源に関する次の文章の()内に入る語句の組合せのうち、正しいものはどれか。
 「B型肝炎は、(A)を介して感染し、麻しんは、(B)を介して感染する。」
 ① A(血液) B(患者の鼻やのどの分泌物) ③ A(蚊) B(血液)
 ② A(飲食物) B(蚊) ④ A(患者の鼻やのどの分泌物) B(飲食物)

- 60 次の感染症のうち、蚊によって媒介されるものはどれか。**
 ① 狂犬病 ② デング熱 ③ 腸チフス ④ 麻しん
- 61 感染症と感染経路に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**
 ① A型肝炎は、血液を介して感染する。 ③ 破傷風は、土壌を介して感染する。
 ② マラリアは、蚊を介して感染する。 ④ 百日せきは、飛沫（ひまつ）を介して感染する。
- 62 次の感染症のうち、性行為によって感染するものはどれか。**
 ① B型肝炎 ② 日本脳炎 ③ コレラ ④ マラリア
- 63 次の感染症のうち、主として飛沫感染するものはどれか。**
 ① 急性灰白髄炎（ポリオ） ② インフルエンザ ③ 後天性免疫不全症候群（エイズ） ④ 日本脳炎
- 64 次の感染症のうち、患者や病原体保有者によって汚染されたタオルなどへの接触を原因として感染するものはどれか**
 ① 日本脳炎 ② マラリア ③ 伝染性膿痂疹（のつかしん）（トビヒ） ④ 破傷風
- 65 感染症と感染経路に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**
 ① 百日せきは、蚊を介して感染する。 ③ B型肝炎は、血液を介して感染する。
 ② 結核は、飛沫核（ひまつかく）を介して感染する。 ④ コレラは、食物や水を介して感染する。
- 66 感染症予防の3原則に関する次の記述のうち、感染源への対策に該当しないものはどれか。**
 ① 予防接種の実施 ② 患者の隔離 ③ 患者の発見 ④ 就業制限
- 67 感染症予防の3原則に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**
 ① 学校（学級）閉鎖は、感染経路対策である。 ③ 予防接種は、宿主の感受性に関する対策である。
 ② ネズミや昆虫の駆除は、感染源対策である。 ④ 検疫は、感染源対策である。
- 68 感染症予防の3原則に関する次の記述のうち、感染経路対策に該当しないものはどれか。**
 ① 学校（学級）の閉鎖 ② 野菜類の十分な洗浄 ③ ネズミ族、昆虫等の駆除 ④ 患者の入院治療
- 69 インフルエンザに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**
 ① インフルエンザウイルスは、ヒト以外の動物にも感染する。
 ② ワクチンは、接種後、直ちに効果が現れる。
 ③ インフルエンザ(五類)は、診断した医師による全数届出対象の感染症である。
 ④ インフルエンザは、1週間程度で回復し、これによって死亡することはない。
- 70 麻しんに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**
 ① 潜伏期は1～2日である ② 病原体はウイルスである ③ 別名を「はしか」という ④ 定期的予防接種が行われている
- 71 結核に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**
 ① 感染経路は、主に飛沫核感染である。 ③ 2011年のわが国の新たに登録された患者数は、約2,000人である。
 ② 肺以外の場所では病変を起こさない。 ④ わが国の現在の死亡率のピークは、青年層である。
- 72 風しんに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**
 ① 妊娠初期の妊婦が患すると、先天性風しん症候群の子供が生まれる危険性がある。 ③ 潜伏期は、12日である。
 ② 飛沫感染が主たる感染経路である。 ④ 定期的予防接種が行われている。
- 73 風しんに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**
 ① 三日はしかともいう。 ③ 症状としての発疹は顔に多く出る。
 ② 胎内感染により先天性風しん症候群の子供が生まれることがある。 ④ 予防接種は毎年受けなければ効果がない。
- 74 結核に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。**
 ① 結核の新規登録患者は、年間約 1,000人である。 ③ 菌は、肺以外の場所に定着しても病変を起こさない。
 ② 定期的予防接種が実施されている。 ④ 感染経路は、主として経口感染である。
- 75 麻しんに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。**
 ① 別名、はしかともいう。 ③ 全身に小さな発疹ができる。
 ② 感染力は非常に弱い。 ④ 定期予防接種が実施されている。

76 風しんに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 潜伏期は、2～3か月である。
- ② 妊婦が罹患すると、心臓病、白内障、聴力障害をもつ子どもが生まれる危険性がある。
- ③ 病原体はウイルスで、患者の鼻や咽頭の分泌物により飛沫感染する。
- ④ 予防には、予防接種を受けることが有効である。

77 結核に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 学校、事業所などで集団発生する傾向がある。
- ② 微熱、寝汗、長く続くせきや痰などが早期症状として現れる。
- ③ 近年のわが国における死亡率のピークは青年期にある。
- ④ 予防接種はBCGワクチンによる。

78 O-157による腸管出血性大腸菌感染症に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 感染経路は、飲食物等を介しての経口感染である。
- ② 病原体は、熱に対して弱い。
- ③ 潜伏期は、約30日である。
- ④ 病原体は、ペロ毒素を出すのが特徴である。

79 後天性免疫不全症候群(エイズ)に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 病原体は、ウイルスである。
- ② 感染後、数日の潜伏期間を経て、ほぼ100%の人が発症する。
- ③ 現在のところ、有効なワクチンはない。
- ④ 病原体は、感染者の血液や精液などに含まれている。

80 後天性免疫不全症候群(エイズ)に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① 一類感染症である。
- ② 握手によって感染する。
- ③ 病気が進行すると、通常は発病しないカビによる感染症を起こす。
- ④ 感染後1週間経てば、感染の有無が抗体検査で判定可能になる。

81 B型肝炎に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 病原体はウイルスである。
- ② 感染者の血液や体液を介して感染する。
- ③ 母子感染(垂直感染)がある。
- ④ 潜伏期間は2日から4日である。

82 血液を介して感染する感染症に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① B型肝炎では、このウイルスを保有している母親から子への垂直感染がある。
- ② ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染の判定は、感染後、数日たてば抗体検出で可能となる。
- ③ 後天性免疫不全症候群(エイズ)は、各種の治療薬が開発され、現在では完治する感染症となっている。
- ④ 梅毒の病原体は、梅毒ウイルスである。

83 B型肝炎に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 症状としては、全身倦怠感、食欲不振、悪心、嘔吐がある。
- ② 肝硬変、肝がんへと進む場合がある。
- ③ 性的交渉では感染しない。
- ④ 血液を介して感染する場合がある。

84 梅毒に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 適切な治療が行われないと、死に至ることがある。
- ② 妊婦が感染している場合、胎盤を介して胎児にうつることがある。
- ③ 予防接種で、感染を防ぐことができる。
- ④ 接吻でも感染することがある。

85 B型肝炎に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 潜伏期は、1～6か月である。
- ② 病原体は、B型肝炎ウイルスである。
- ③ 感染源は、ヒトの血液や体液である。
- ④ 予防のためのワクチンはない。

86 B型肝炎に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- ① 約1週間の潜伏期を経て発病する。
- ② レザーやシザーズによる皮膚の傷からは感染しない。
- ③ 母子感染予防に新生児へのワクチン投与は有効である。
- ④ 持続性感染は起こらない。

87 次の感染症のうち、蚊によって媒介されるものはどれか。

- ① ペスト
- ② インフルエンザ
- ③ デング熱
- ④ コレラ

88 次の感染症とその潜伏期間に関する組合せのうち、正しいものはどれか。

- ① B型肝炎……………約3日から7日
- ② 後天性免疫不全症候群(エイズ)……………約7日から10日
- ③ 風しん……………約14日から21日
- ④ 腸管出血性大腸菌感染症……………約1か月から6か月